

皆さん こんにちは。文化財課の児玉です。今回は、文化財の保存修理について述べたいと思います。私が最近関わった文化財の保存修理の事例としては、浪岡城を築城し居城とした浪岡北畠氏の一族の墓だと言われている「伝北畠氏墓所」の五輪塔が挙げられます。

浪岡城跡から南東に 1.5 km程離れたところの青森農協リンゴ部東部りんごセンターの近くにあり、道路を挟んで南北2カ所に位置しています。この2カ所の墓は、「伝北畠氏墓所(一)・(二)」という名称で、昭和55年(1980)4月に当時の浪岡町指定文化財(史跡)として指定され、現在は青森市指定文化財となっています。

当時の指定に関わる資料を見ると、北側の「伝北畠氏墓所(一)」は“北畠累代墓建立地”と記載されています。現地には「北畠累代墓」と刻まれた石碑が建立されており、明治15年(1882)8月に太政大臣三条実美の題字により建てられたと伝えられています。南側の「伝北畠氏墓所(二)」は“北畠守親墓所”とされています。明治13・14年頃には、いずれの墓所にも複数の五輪塔があったとされますが、戦時中にその多くが遺失したようです。

さて、この五輪塔ですが、建立から数百年経過しており、数年前に現地で確認した時には、大きな亀裂が入っていたり、剥落したり、石材の表面がボロボロになっているものもありました。このまま、放置しておく、さらに被害が拡大し、文化財としての価値を損ねるとともに将来への継承が危惧されることから、当然のごとく保存修理が必要になります。



修前の五輪塔

今回の五輪塔の修理にあたっては、文化財としての価値を損ねないように、詳しく調査を行い、確実な修理方針を検討した上で、慎重に行う必要があります。調査の結果、亀裂や剥落の原因としては、この五輪塔の石材そのものの吸水性が高く、冬から春にかけて、石材にしみ込んだ水分が凍結と融解を繰り返して、破損したのではないかと考えました。

そこで、修理の方法としては、石材のクリーニング、強化処理、接合及び擬岩処理、撥水処理を実施することとしました。順を追って説明すると、「クリーニング」では、石材に繁茂するカビ、苔・地衣類等の微生物、汚れを除去し、それらによる有害な劣化を防止するための措置。「強化処理」では、石材の劣化を止め、これから先の劣化を防ぐための強化剤の塗布。「接合及び擬岩処理」では、亀裂に修復剤を注入するとともに割れた部分を接合する作業を実施し、修復剤等が見える人工的な部分を、自然な石材に見えるように処理を行いました。最後に石材の冬期における凍結破砕防止を目的に、水の浸透を防止する「撥水処理」を実施し完了です。



修後の五輪塔

以上のように、今回は、専門的な保存修理を実施しましたが、今後も長い年月の経過により、老朽化したり損傷したりすることは避けられません。しかし、適切な時期に、適切な保存修理を行い、それを繰り返すことで、地域の宝である文化財を後世に伝えていくことができるのです。